

## マレーシア修学旅行でアスタ高校との学校交流を行いました

去る1月24日から28日まで2年次生のマレーシア修学旅行を実施しました。活動3日目の1月26日に第5回目となる現地アスタ高校との学校交流を行いました。アスタ高校は、英語をコミュニケーションツールとし、マレー系、中国系、インド系の生徒がともに学び、多文化共生や異文化理解を尊重している高校です。

本校生たちは、「総合的な学習の時間」などにおいて、アスタ高生と半年以上かけてインターネットを利用したメール交換や写真交換などを行い、1対1の交流を続けてきました。

この日は、朝8時30分に学校に到着。各々の交流相手を確認し、交流会が始まりました。本校生たちは、全員で練習を積み重ねてきたダンス・歌に加え、空手道の演武、学校紹介のプレゼンなどを行いました。アスタ高生たちも、民族舞踊や歌、伝統的な結婚式のパフォーマンスを披露するなど、熱烈に歓迎してくれました。交流ノートを交換し、マレーシア料理を一緒に食べた後、午後からは、アスタ高生のリードでクアラ Lumpur 市内を散策しました。夕食のパーティは、両校生たちが企画し、歌やダンスなどのパフォーマンスを競うなど、全員が心から打ち解け、大きな感動を呼ぶものとなりました。パーティは夜の8時30分に終了し、12時間に及ぶ交流となりました。

また、今回の修学旅行では、世界遺産マラッカ訪問、熱帯雨林トレッキング、イスラム教・ヒンズー教・仏教の代表的な寺院の見学なども行いました。本校生たちは、この旅行を通じ、外国の友人を作ることができ、多民族国家であるマレーシアの文化に直接触れることができました。また、環境問題を考え、日本の文化を見つめなおすとともに、英語力を身に付けることの重要性を肌で感じ取ることができました。

この5月末には、今度はアスタ高生が本校を訪問することになります。また、ユネスコスクール学びの交流会を8月19・20日に能勢で開催することも決まりました。このような機会を積極的に活用し、総合学科としての「国際・情報」系列などの学習を一層深めていきたいと考えています。(校長)

\* 今回の修学旅行のダイジェストを次のページからの写真で紹介します。

## ○第1日目（1月24日）



朝6時半に学校集合。バスで関空へ移動。



関空でのチェックインが終了後、諸注意等。



マレーシア航空機内の様子。約7時間の空旅です。



クアラルンプール空港着。入国審査終了後、預け荷物を受け取りました。



レストランで夕食（中華料理）をとり、ホテルへ。



私たちが泊まったイスタナホテル。5つ星です。

## 第2日目（1月25日）



ホテルのレストランでの朝食。バイキング料理です。



見学した国立回教寺院です。



寺院の内部の様子です。



イスラム教寺院では女子は長袖でスカーフが必要です。



森林研究所でガイドによるジャングルトレッキング。



レストランでの昼食風景です。



バツー洞窟の見学です。  
272段の石段を登りました。



洞窟の内部にあるヒンズー教寺院です。



チョコレート専門店ベリーズで買い物をしました。



クアラルンプール市内を散策しました。



クアラルンプールは大阪に負けないほどの魅力ある都会です。



屋外レストランでの夕食風景です。

### 第3日目（1月26日）



アスンタ高校では正門から大歓迎を受けました。



マレーシアの伝統舞踊で歓迎してもらいました。



両校校長の交流記念品の交換です。本校からは兜を渡しました。



本校生は英語で、挨拶やプレゼンを行いました。



ヒンズー教徒の伝統的な結婚式を披露してもらいました。



本校空手道部員が演武を披露しました。



本校生全員で、ダンス（AKB48）を披露しました。



クアラルンプールに移動し、アスンタ高生との記念写真です。



夕食のパーティは、両校生がダンスや歌などのパフォーマンスを行い、大変盛り上がりました。最後の記念写真撮影です。

#### 第4日目（1月27日）



新都心のプトラジャを訪問しました。ピンクモスクです。



世界遺産のマラッカを訪問しました。



赤レンガのオランダ広場での記念写真撮影です。



青雲亭という仏教寺院を見学しました。



露天では、様々なお土産が売られていました。



フランシスコザビエルの遺体が保管されていたセントポール教会。



マラッカのジャスコで買い物をしました。



マレーシアで最後の食事です。



クアラルンプール空港での諸注意です。夜の12時に出発です。

## 第5日目（1月28日）



早朝に関空に到着しました。



関空からバスでマレーシアと温度差30度の能勢に戻りました。



荷物とお土産をかかえ、それぞれが家路につきました。